



第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師
 プレイズリード: 郭永東牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「あなたは」 「主の愛が今」	会衆	
聖書朗読	コリント第二4:16 (新約聖書 p329)	司会	
祈禱		〃	
賛美	66	会衆	
メッセージ	「聖なる聖なる聖なるかな」 「日々新たに」	牧師	
祈禱		〃	
賛美	新生512	会衆	
献金祈禱	「日ごと主イエスに」	司会	
報告		〃	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	



第二礼拝次第

お休み



ファミリー礼拝

聖書: エゼキエル 37:1~14
 メッセージ: 「枯れた骨よ、
 主の言葉を聞け」

<巻頭言>

「コロナ禍での教会形成」

牧師 渡真利彦文

コロナ禍において教会が直面した課題について考えてみます。それはコロナ禍のみならず社会の危機的な事態に、教会はどのように考え動いているのかという課題です。今回は、ジャーナリズムに振り回され地に足のつかない対応もあったのではないという声もありました。しかし、現場は待ったなし、教会は現場で最善の対応を考えなくてはなりません。大事なことは、常識によって情報を参考とし識別しながらも聖書の信仰から対応していくこととなります。

たとえばキリスト者にとって礼拝は継続を要することですが、神がこれを妨げるかのように見えるのは、どのような理由によるものかを考えることです。礼拝が礼拝として機能していたのか、その本質的な在り方を問われた思いがします。確かに礼拝において決定的に重要なことは礼拝において自分がどのように感じるか、満足するか、ということよりも、神が私たちの礼拝を喜んでくださっているかどうかにあります。

そのような、否応なしに導入せざるを得なかったオンライン礼拝も、これを単なる一時的な手段として、あるいは宣教の拡大の機会として考えるのではなく、オンラインといえども、み言葉、信仰告白、感謝、そして献身において、場を違えながら皆が一つ心になって献げる、まことの礼拝となっているかが重要でしょう。

コロナ禍は教会の在り方を振り返る機会を与えてくれました。